

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	5-3-1		事業名	札幌駅交流拠点再整備構想策定事業
担当	市民まちづくり局都市計画部都心まちづくり推進室都心まちづくり課 比内 Tel211-2692			
全 体 計 画				
事業内容	持続的な都市の発展と将来を見据えた道都の玄関口としての拠点性を高めることを目的として、交通結節点機能の見直し・強化とともに、将来の北海道新幹線の札幌駅乗り入れを見据え、北5西1街区を含む札幌駅周辺の再整備構想を策定する。		＜年度別の事業内容＞	
			<p>平成19年度 札幌駅周辺の課題の整理</p> <p>平成20年度 再整備の方向性検討(現況・課題の整理、土地利用等) 外部検討委員会設置・運営等</p> <p>平成21年度 外部検討委員会の運営 (再整備にかかる企画提案公募、事業計画案作成、パブリックコメント実施等)</p> <p>平成22年度 再整備構想策定</p>	
事業内容・量・場	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	平成19年度については、JR北海道との勉強会等を通じ、札幌駅周辺地区の経緯経過把握、今後の進め方検討、周辺交通環境・土地利用の問題・課題把握、バスターミナル再整備検討のための前提条件整理、交通処理上の課題整理を行った。		<p>○現況・課題の整理 19年度に引続き、課題の整理を行った。</p> <p>○整備の方向性検討 周辺の土地利用、新幹線駅出入口の設置位置、バスターミナル再整備、南口駅前広場再整備、路面電車延伸時の対応等について、方向性を検討した。</p> <p>○交通調査 札幌駅周辺交通の課題解決や再整備にあわせた円滑な交通処理を実現するため、歩行者、自動車の将来交通動向予測を行い、交通面での現状の把握と再整備の方向性を検証した。</p> <p>○構想案策定委員会の設置検討 現状課題と再整備の方向性を踏まえ、学識経験者等からなる構想案策定委員会の設置を検討した。</p>	
	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(決算)	
	<p>○構想案策定委員会の運営 平成22年度の構想案策定に向け有識者などからなる構想案策定委員会を立ち上げた。</p> <p>○交通調査 前年度の調査の結果から、想定される土地利用における交通面での課題の整理、検証を実施した。</p>		<p>○構想案策定委員会の運営 平成21年度に立ち上げた構想案策定委員会において引き続き検討を進めた。</p> <p>○調査検討の実施 昨年実施した市民アンケート及び市民検討会に続いて、将来のまちづくりの担い手である学生と国際的な視点をもった留学生の意見を把握するため留学生・大学生ワークショップを実施した。また、札幌市民以外の利用者の意見を把握するための道内・道外WEBアンケート調査、事業者の意見を把握するためのヒアリングなど構想案策定委員会の検討において必要となる調査等を実施した。</p>	
規模				
件数				
等				

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	5-3-1		事業名	札幌駅交流拠点再整備構想策定事業			
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
札幌駅交流拠点再整備構想の策定	-	検討	検討	検討	検討	策定	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加</p> <p>○市民アンケート及び市民検討会を実施し、市民意見の把握に努めた。(H21)</p> <p>○将来のまちづくりの担い手である学生と国際的な視点をもった留学生の意見を把握するため、留学生・大学生ワークショップを実施した。また、札幌市民以外の利用者の意見を把握するため道内・道外WEBアンケート調査を実施した。(H22)</p> <p>○構想案策定委員会において、構想案が策定され、市が提言を受けた段階でパブリックコメント等の手法で市民参加、情報共有を図る予定。</p> <p>■企業等との連携・協働</p> <p>[資金協力](該当なし)</p> <p>[人材協力](該当なし)</p> <p>[情報協力] JR北海道との情報共有を行う。</p> <p>[その他の協力]市内の事業者の意見を把握するためヒアリングを実施した。(H22)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p> <p>○市民への情報提供の一環として、札幌市市民情報センターが実施するラジオ放送「そら色ステーション」を活用した。</p>							
評価(成果)			課題				
<p>○平成21年度に立ち上げた有識者などからなる構想案策定委員会の継続により構想案策定に向けた議論・検討を深めることができた。</p> <p>○昨年実施した市民アンケートや市民検討会に加えて、留学生・学生ワークショップ、道内・道外WEBアンケート調査、事業者ヒアリングを実施したことでより広範囲の意見把握をすることができた。</p> <p>○これらのことにより、道都札幌の玄関口としての札幌駅交流拠点について、将来のまちづくりの方向性を明らかにし、今後の再整備事業に向けた考え方を示すための、再整備構想として検討を深めることができた。</p>			<p>都心部での主要プロジェクトである札幌駅前通地下歩行空間、創成川通のアンダーパス連続化・創成川公園の供用が開始され、北海道新幹線の札幌駅乗入れ、路面電車の延伸・活用検討等、札幌駅周辺に係る各種整備・検討が進む中、それらを総合的に考慮したうえで、関係者との調整を行い、再整備構想の策定に取り組む必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>構想策定に向けて構想案策定委員会での検討を確実に進める。構想策定により、札幌駅交流拠点の将来のまちづくりの方向性が明らかになることから、以後、これに基づいた再整備事業を、官民協働で推進していく。</p>							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		5-3-1			事業名	札幌駅交流拠点再整備構想策定事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	0	8,000	10,000	4,000	22,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	4,000	5,000	0	9,000				
	市の債	0	0	0	0	0				
予算	事業費	0	8,000	10,000	6,000	24,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	4,000	5,000	3,000	12,000				
	市の債	0	0	0	0	0				
実績	事業費	2,835	7,560	9,864	8,349	28,608				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	3,780	4,932	4,048	12,760				
	市の債	0	0	0	0	0				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					130.0%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度] 平成20年度末に設置予定の構想案策定委員会は平成21年度に設置することになった。										
[21年度]										
[22年度] 22年度に構想案を策定する予定であったが、北海道新幹線の札幌乗入れや路面電車、諸交通計画など、重要な要素が未確定であり、それらを見極めた上で構想案を策定する必要があることから、23年度も委員会での検討を継続することとした。										